

## 循環バスの課題等について

## 1 概要

現在の循環バスの現状や課題について公共交通会議内での意識共有を図るもの。

## 2 現状の課題

- (1) 利用者の急増により、立って利用する方が増えていることから車内事故の懸念が高まっている
- (2) 利用者が多い区間におけるダイヤの定時運行がなされていない

## 3 利用者の声（これまで事務局で把握しているもの）

- (1) ダイヤの遅延が発生している
- (2) 便数が少ない
- (3) 1周あたりの時間が長く、目的地まで時間がかかる
- (4) 南ルートを市役所まで延ばしてほしい
- (5) 運行していない地域がある（南柴田町や富木島町東長口の周辺）
- (6) 車両の座席数が少ない（北・南ルート）

## 4 解決方法の例

- (1) ダイヤを延ばして増便する（1周を120分とするが1時間に1本とする）

## ア メリット

- ・便が増えるため、利便性が向上する
- ・利用者が分散することで車内事故の危険性も低くなる

## イ デメリット

運行負担金が大幅に増加する

- (2) ルートの縮小・バス停の統廃合を行う

## ア メリット

- ・1周あたりの時間が短縮され、速達性の向上が期待できる

## イ デメリット

- ・従来利用していたバスを統廃合するため、利便性が低下する

- (3) ルートの延伸・新ルートの設立

## ア メリット

- ・空白地を補完することにより、今までバスを利用できなかった方が利用できるようになり利便性が向上する

## (イ) デメリット

- ・ルートの延伸により運行時間が長くなる
- ・新ルートが増えると運行負担金が増加する
- ・既存ルートについて利用者がさらに増加する可能性があり、安全運行への懸念が高まる

## (4) 車両の大型化、座席の多い車両への転換

## (ア) メリット

- ・安全運行の確保が期待できる

## (イ) デメリット

- ・車両の入れ換え等によって費用が発生する
- ・道路幅の関係上、既存ルートの走行は不可能となる
- ・低床型の小型バスは現行車両しかなく、バリアフリー面が懸念される

## 5 その他

循環バスの見直しに合わせ、その他公共交通機関との連携も必要となっている

## 6 参考

## (1) 平成28年度負担金等

平成28年度運行経費総額（車両減価償却含む）	・・・147,361,248 円—①
運行収入（運賃・回数券売り上げ等）	……………18,119,140 円—②
国庫補助金	……………8,747,000 円—③

**運行負担金合計** ①— (②+③) ÷ **120,495,100 円**

※1便あたり 7,504 円

※1日あたり 360,192 円（平日）

## (2) 市民負担額等

平成29年4月1日現在 人口 114,170 人 世帯数 49,403 世帯

1人あたりの負担額 約1,056 円/年

1世帯あたりの負担 約2,439 円/年